

楽校をつくろう！

自ら考え行動する人を育てる。
学びを通して町をつくる。

参 考 資 料 3
教育民生常任委員会
教 育 総 務 課
令和 6 年 11 月 29 日

葉山町教育委員会

葉山町教育ビジョン（案）

はじめに

以下の「葉山町 Education Mission 2025」は、令和5年8月に葉山町教育委員会が策定した「スクールミッション*1」をもとに策定した葉山町における教育のミッションです。

スクールミッションは学校教育における最上位の理念であり、教育委員会が学校に期待する内容をまとめたものですが、社会の変化に応じて学ぶこと、自分の関心に応じて学ぶこと、そのために進取の気象に富むこと、これらすべては、学校教育と生涯学習において共通する社会的役割であると考えます。

一方、これまでの教育総合プランは、教育施策の着実な実現において点検・評価制度を含めて大きな役割を果たしてきましたが、ドラスティブな学びの変化を実現させるには必ずしも適していませんでした。

どのような時代であっても、未来を切り拓いていくのは学びだと思います。

スクールミッションを葉山町のEducation Missionのベースにすることは、位置づけとして逆さまかもしれませんが、これは、葉山町教育委員会が走りながら考えてきた結果のひとつでもあります。

今後は、葉山町教育委員会が担う役割を改めて自覚し、この「葉山町教育ビジョン*2」に基づき、「楽校をつくろう！」に挑戦していきます。

令和6年3月

葉山町教育委員会

葉山町 Education Mission 2025

1. 学びは社会の変化、葉山のまちづくりとともにある

世界は不確実性の高い、先行きの見通しが難しい「VUCA（ブーカ）*3の時代」に。さらに、日本は その中で、社会や経済が縮小する「Shrink（シュリンク）*4の時代」を迎えています。

私たちが経験したことない、VUCA（ブーカ）の時代、Shrink（シュリンク）の時代。さらに「AI*5の時代」。新しい社会を生きる私たちは、これまでの常識が通用しない、正解のない、多くの問いにぶつかります。

新しい社会では、「新たな価値を創造する力」「対立やジレンマ*6に対処する力」「責任ある行動をとる力」が求められます。工業社会において重視された集団の「規律」よりも、「自分を知り、突き詰める」ことが働くうえで強みになります。

9年間の教育課程においても、様々な問題を思慮深く考え、それらを解決する力を身につける鍛錬を、意図的・計画的に積むことが求められています。

一方、学びは学習者の人生を豊かにするだけでなく、他者や葉山、国、世界を豊かにする人材を育成します。

また、教育そのものの質と、それを支える学び舎の充実は、葉山のまちづくりにおいても様々な効果を上げることが期待できます。

葉山町 Education Mission 2025

2. 学びによって夢や目標を見つける力、みつけたときに行動できる力を育む

15歳までに、人生における夢や目標を持つことはできるでしょうか。そもそも、夢や目標を持っている人はどれほどいるのでしょうか。

繰り返される日常に大きな不安や不満もなく、むしろ快適な生活が送れているのであれば、新しいことに挑戦しようとする気持ちは生まれづらいのかもしれませんが。

でも、「あの頃、もっと勉強しておけばよかった」と後悔する大人は少なくありません。それは、多くの大人が、目標を持つことや、学び直しの必要性を、社会にでてから強く感じているからではないでしょうか。もちろん、社会人になっても学び直しはできます。でも、学校という学びにとって最高の環境にいる時間は、特別で貴重なものなのです。

だからこそ、葉山の学校では、かけがえのない15歳までの時間でワクワクする“気づき”の最大化を目指します。自分の関心を徹底的に追求するような課題解決型の学びを通して、自分の夢や目標が持ちやすくなる当事者意識を育みます。同時に、自分の思考の特徴を理解するメタ認知能力*7を高め、夢や目標が持てたあとに役立つ、学習スタイルの獲得を目指します。

葉山町 Education Mission 2025

3. 進取の気象に富む

「進取の気象に富む」とは、従来の習わしにとらわれることなく、積極的に新しい物事に取り組んでいこうという気質や性格を指します。

学校教育においては、社会の変化とともに、総合的な学習の時間や情報教育など、重点化すべき学びはありますし、教育の基本的なスタンスも、教員による一方的な「指導」から、子どもの自律を促す「支援」へと変化しています。

また、学びは、何より、VUCA（ヴーカ）の時代、Shrink（シュリンク）の時代、AIの時代を生きる、子ども中心でなければなりません。しかも、子ども中心の学校は、教員もワクワクできる働き方改革と一緒に進めないことには実現できません。

カリキュラム*⁸は学習者のためだけでなく、教員が学びあえるようにするためにも、工夫しなければなりません。スクールポリシー*⁹に向かっていない、教員にとって過度な負担となっている、そうした取組・行事・会議等については、ドラスティックに見直し、積極的に新しい手法を取り入れましょう。

また、学校が変わるには、コミュニティ・スクール*¹⁰の利点を最大限に活かしながら、学校、保護者、地域、企業のすべての力を融合させ、「共生」を生み出すことが有効です。関係者の皆さんとともに新しい社会が求める学びを創造しましょう。

目次

- 葉山町教育ビジョンとは 1
- 葉山町教育ビジョンの構成・期間 2
- 教育をめぐる状況と課題 3
- 葉山町が目指す教育 12
- 「楽校をつくろう！」を実現する6つの施策の方針 . . 13
- 基本施策 14
- 施策ごとの進行管理 15
- 用語集 16

1 葉山町教育ビジョンとは

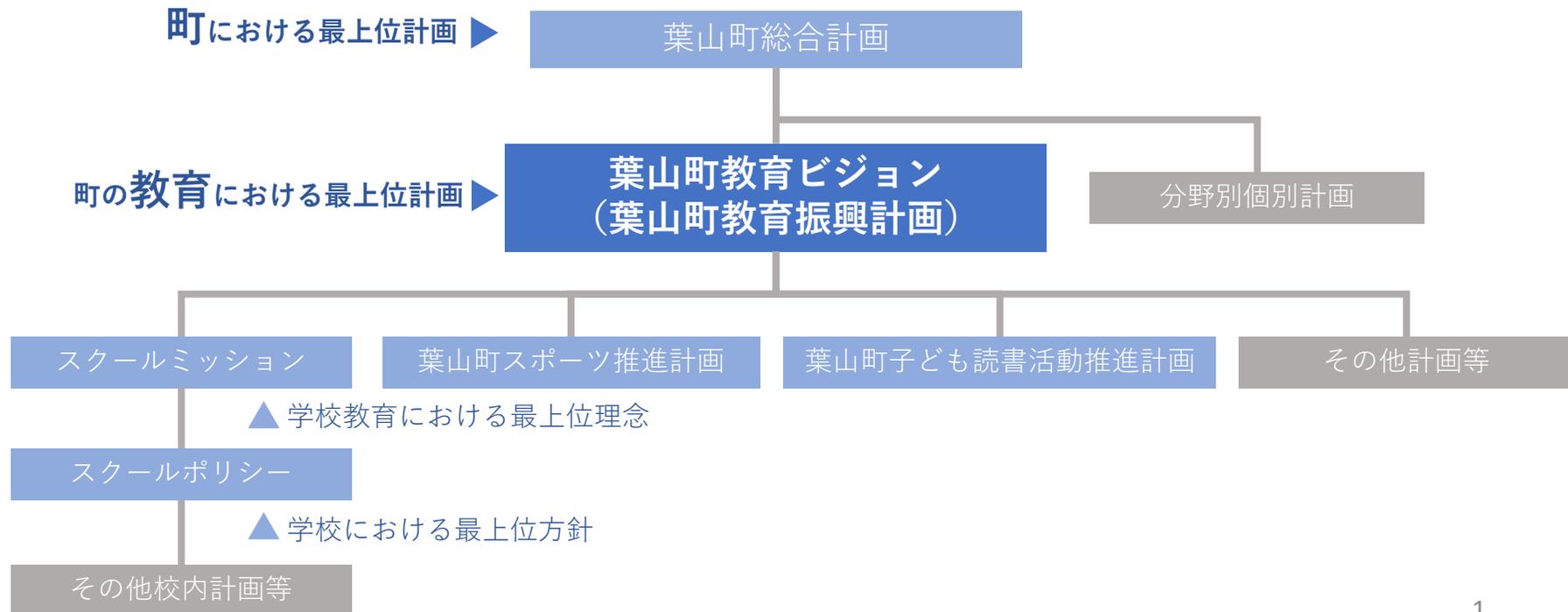
葉山町教育ビジョンは、教育基本法第17条第2項に規定する葉山町の教育振興基本計画として策定するものです。

また、同ビジョンは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に規定する教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の基礎となるものです。

(教育振興基本計画)

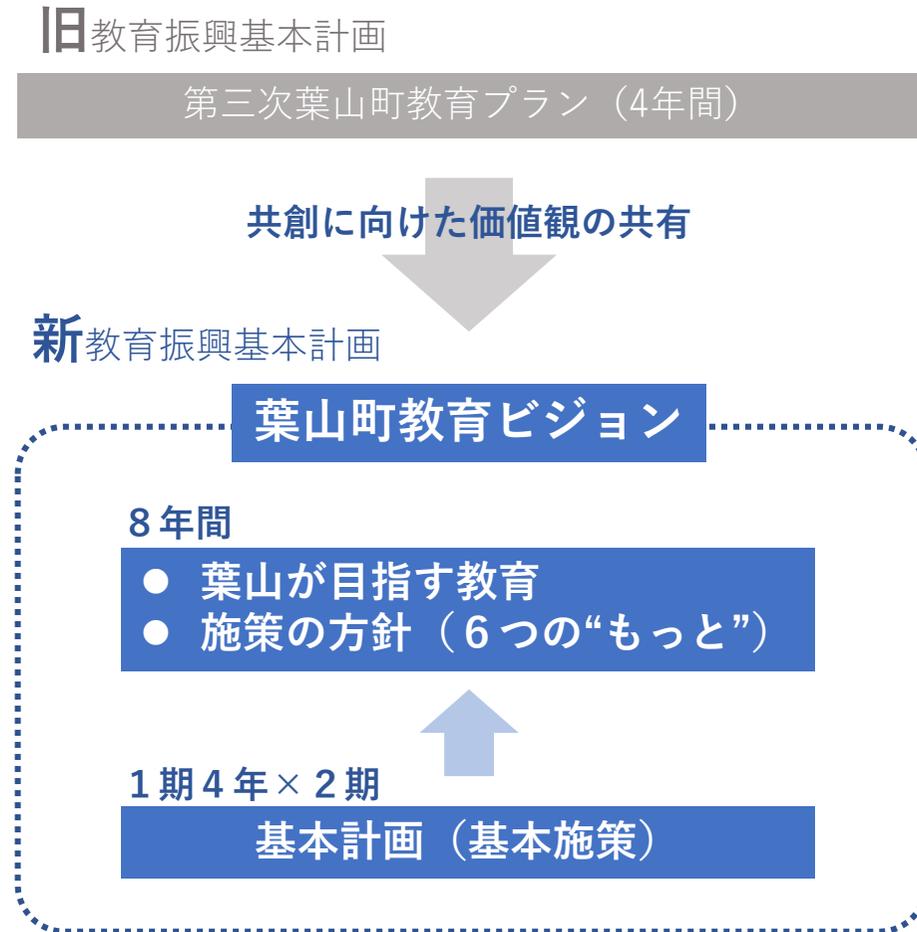
第17条 政府は、教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、教育の振興に関する施策についての基本的な方針及び講ずべき施策その他必要な事項について、基本的な計画を定め、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

2 地方公共団体は、前項の計画を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるよう努めなければならない。



2 葉山町教育ビジョンの構成・期間

葉山町教育ビジョンは、今、新しい学校の整備という千載一遇のチャンスを迎えていることと、第五次葉山町総合計画基本構想（16年間）及び同基本計画（1期4年×4期）の計画期間を踏まえ、下図のとおり
の構成・期間とします。



3-1 教育をめぐる状況と課題

- これからの社会では、「新たな価値を創造する力」「対立やジレンマに対処する力」「責任ある行動をとる力」が求められます。かつての工業社会において重視された集団の「規律」よりも、「探究心を持ち続ける」ことが生きていくうえで強みになります。

PISA 2022

日本は、OECD加盟国（37カ国）のうち、**数学的リテラシー、読解力、科学的リテラシーすべての項目において、世界トップレベル。**

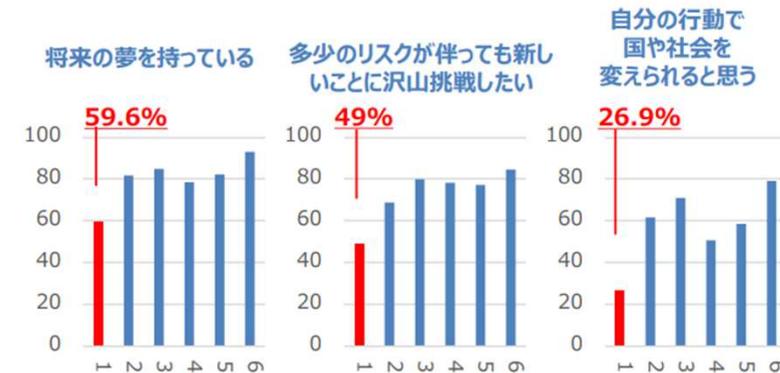
OECD加盟国（37カ国）における比較

□ は日本の平均得点と統計的な有意差がない国

数学的リテラシー		平均得点	読解力		平均得点	科学的リテラシー		平均得点
1	日本	536	□ アイルランド*	516	日本	547	1	
2	韓国	527	□ 日本	516	韓国	528		
3	エストニア	510	□ 韓国	515	エストニア	526		
4	スイス	508	□ エストニア	511	カナダ*	515		
5	カナダ*	497	□ カナダ*	507	フィンランド	511		
6	オランダ*	493	□ アメリカ*	504	オーストラリア*	507		
7	アイルランド*	492	□ ニュージーランド*	501	ニュージーランド*	504		
8	ベルギー	489	□ オーストラリア*	498	アイルランド*	504		
9	デンマーク*	489	□ イギリス*	494	スイス	503		
10	イギリス*	489	□ フィンランド	490	スロベニア	500		
OECD平均		472	OECD平均		476	OECD平均		485
信頼区間※（日本）：530-541			信頼区間（日本）：510-522			信頼区間（日本）：541-552		

日本財団「18歳意識調査」

自身の将来や社会の関わりに関する多くの項目で、日本は**6カ国中最下位**。**主体性の低さ**が目立つ。



※「18歳意識調査」第46回 -国や社会に対する意識」を基に経済産業省作成

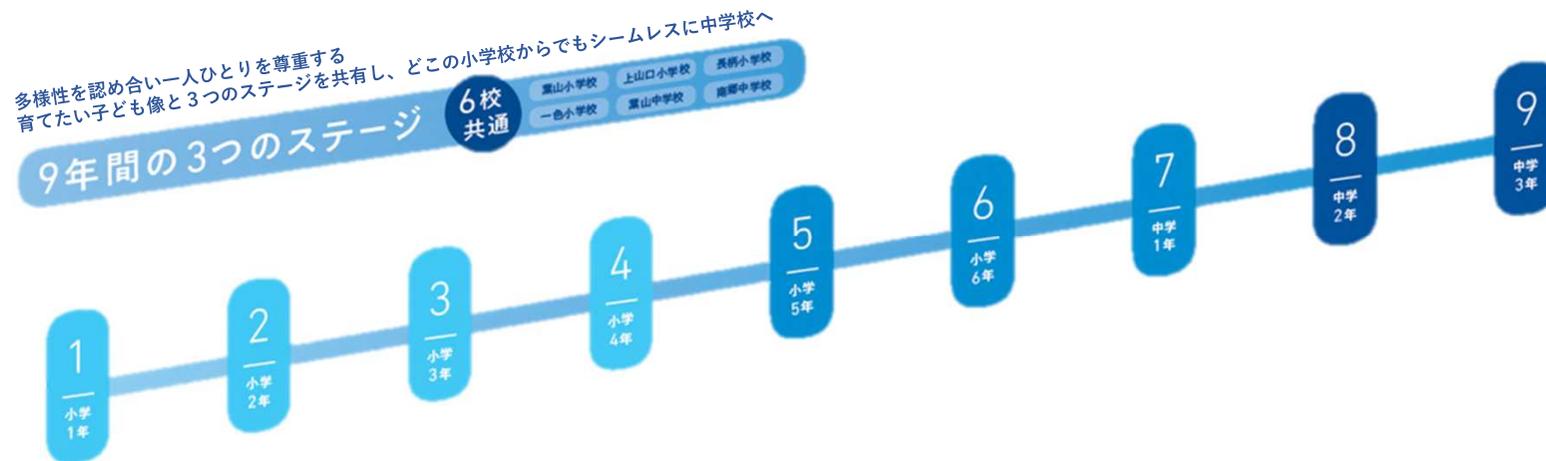
(参考・引用) 文部科学省・国立教育政策研究所「[OECD生徒の学習到達度調査 PISA2022のポイント](#)」(2023年12月5日)、日本財団「[18歳意識調査「第46回 -国や社会に対する意識 \(6カ国調査\) -」報告書](#)」(2022年3月24日)

令和5年度 全国学力・学習状況調査

全国学力・学習状況調査質問紙より抽出 (令和5年度)	葉山町	神奈川県	全国
将来の夢や目標を持っていますか	中学校68.7% 小学校82.1%	中学校64.8% 小学校79.6%	中学校66.3% 小学校81.5%
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	中学校65.5% 小学校76.4%	中学校60.8% 小学校76.5%	中学校63.9% 小学校75.8%

3-2 教育をめぐる状況と課題

- 9年間の継続的な義務教育課程において、正解のない問いに対して子どもたちが自ら考え、解決する力を身につける学習を、意図的・系統的・計画的に積み重ねることが求められています。



前期 小学1年生～小学4年生

入学に際して、多くの子どもは期待と同時に不安を抱いています。学校は子どもを真ん中に考えます。教員はすべての子ども一人ひとりに責任を持ちます。このステージでは、「遊び」の中にあるワクワクの要素を学びに活かし、よりよい成長を支える自己肯定感を高めます。

中期 小学5年生～中学1年生

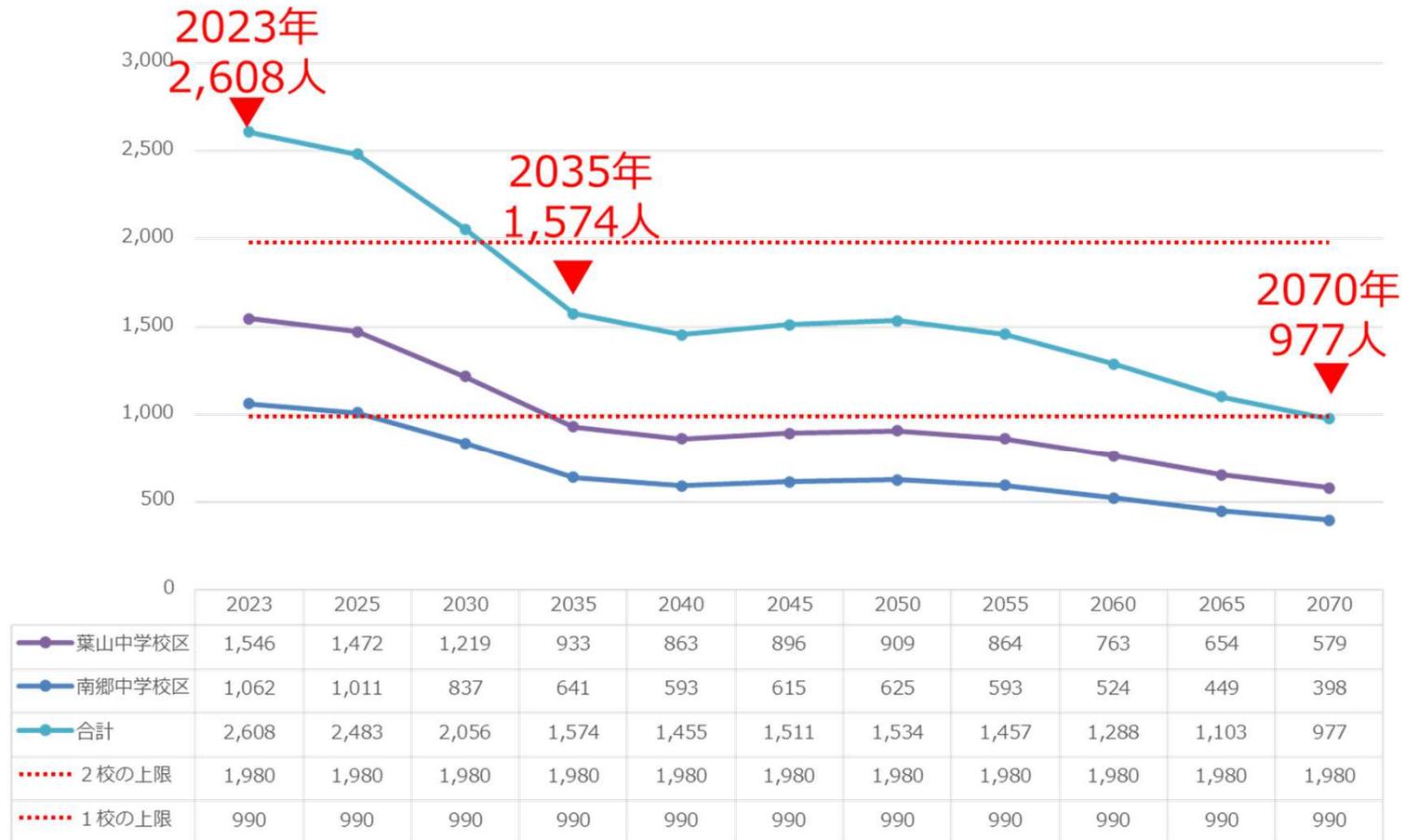
学習が基礎から応用に移り、そのギャップ（段差）に特に気を付けたい時期です。このステージでは、ヒト・モノ・コトとの出会いを通して、ワクワクを原動力とした学び（探究）の持続を図ります。探究するだけでなく、仲間とともに創造する機会を提供します。

後期 中学2年生～中学3年生

これまでに身につけた知識・スキル・態度・価値を総動員することを意図します。このステージでは、学校、地域、社会の具体的な課題解決に取り組む実践的な学びに挑戦します。AIとの共存社会がやってくる中で、人間にしかできない「考えて行動する力」を高めます。

3-3 教育をめぐる状況と課題

- 葉山町の児童生徒数の将来推計は減少傾向にあり、2035年には全体で1574人（全学年で45クラス/学年5クラス）葉山中学校学区は933人（全学年で27クラス/学年3クラス）と南郷中学校学区641人（全学年で18クラス/学年2クラス）となる見込みです。

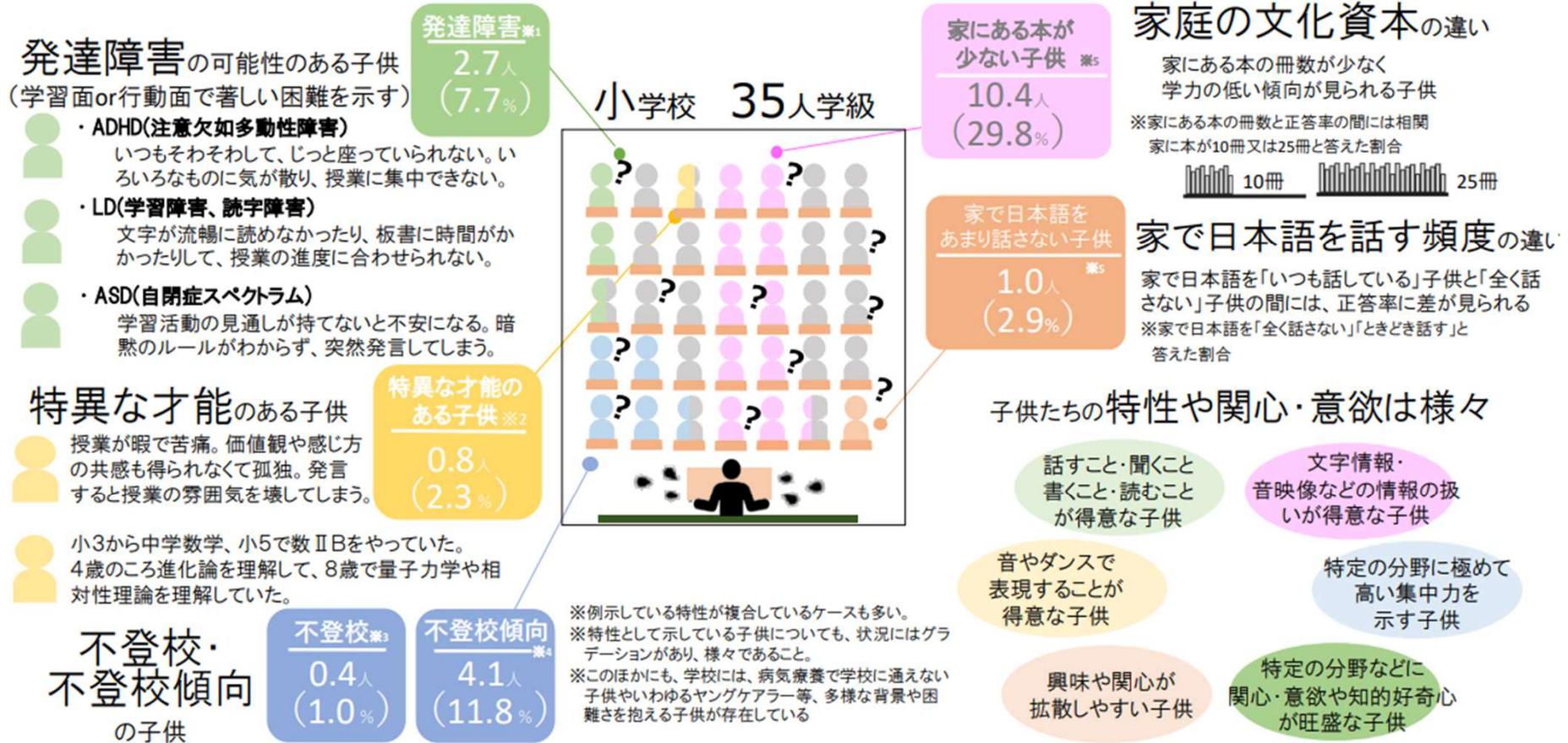


※令和5年5月1日現在の児童生徒数に年少人口の減少率（第五次葉山町総合計画人口推計）を乗じて算出

※上限の設定：小学校35人×18学級=630人、中学校40人×9学級=360人、合計990人（文科適正規模：小中18学級、義務教育27学級）

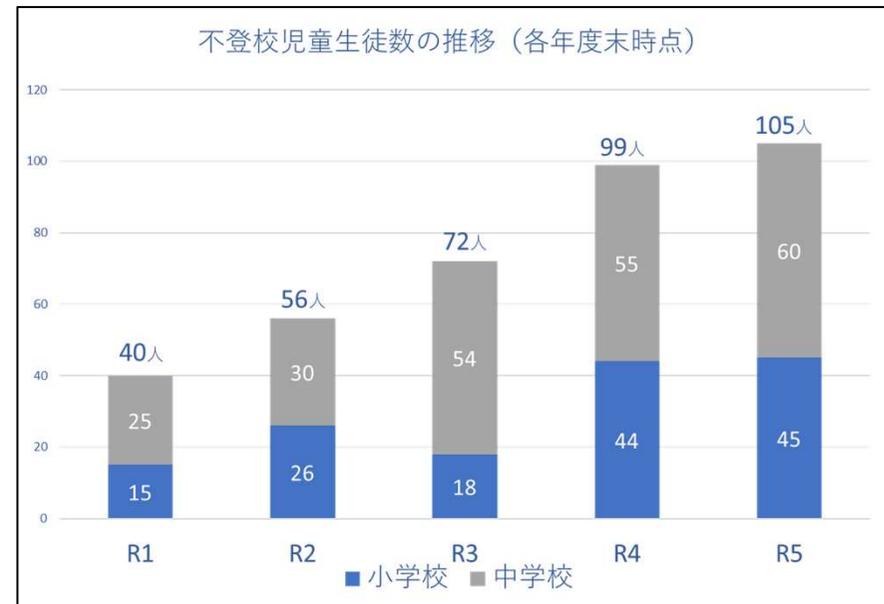
3-4 教育をめぐる状況と課題

■ 学校には、多様な子どもたちが集まっており、例えば、知識の習得に個人差があったり、不登校の傾向がある子どもたち、日本語を母語としていない子どもたちへの日本語の支援が必要です。また、これまで特別支援教育として取り組んできた教育の仕組みを、すべての子どもたちに対して「個別最適な学び」・「協働的な学び」が一体的に推進されるように、誰もがともに学び合えるインクルーシブ教育^{*11}に転換していく必要があります。



3-5 教育をめぐる状況と課題

- 葉山町の状況として、支援級に在籍する児童生徒数が年々増加しています。内訳として、特に知的障害級、自閉症・情緒障害級に在籍する児童生徒数が増加傾向にあり、必要な人材や教室の確保に課題が生じてきています。また、国が定義する不登校児童生徒も増加傾向となっています。このうち、学校及びフリースクール等^{*12}の学びの場につながない児童生徒が令和5年度末時点で、小学校21人、中学校22人含まれており、詳細な状況の把握とその対応が課題となっています。



「不登校児童生徒」とは、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために、年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的理由による者を除いたもの。

3-6 教育をめぐる状況と課題

- これからの社会では、生涯に渡っての学習やスポーツへの多様なニーズが高まり、人生100年時代を見据えた学び直し（リスキリング*13）の重要性も増しています。そのためには、行政、企業、学校、地域など多様な主体が連携し、個人の学びやスポーツへの参加を促すための情報発信や動機付けを強化することが不可欠です。これらの取り組みを通じて、誰もが主体的に学び、運動に親しみ、心身ともに健康な生活を送れるよう、生涯学習・スポーツ振興施策を充実させることが求められています。

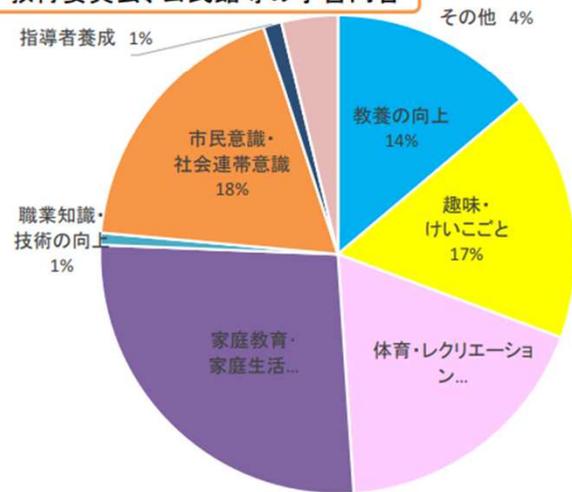
生涯学習の現状（行政・社会教育施設等）

- 教育委員会や公民館等が開催する生涯学習講座の受講者数が最も大きい。
- 約8割の社会人が今後の学習に意欲的で、若い年代ほど「職業上必要な知識・技能」を挙げる割合が多く、「趣味的なもの」は生涯を通じて関心が高い傾向

学習者人口

○教育委員会、公民館等による学級・講座の受講者数	3,086万人	○高等学校開放講座（公立）	18万人
○知事・市町村長部局による学級・講座の受講者数	785万人	○カルチャーセンター等	998万人
○大学・専門学校等社会人受講者	50万人	○大学等公開講座	134万人

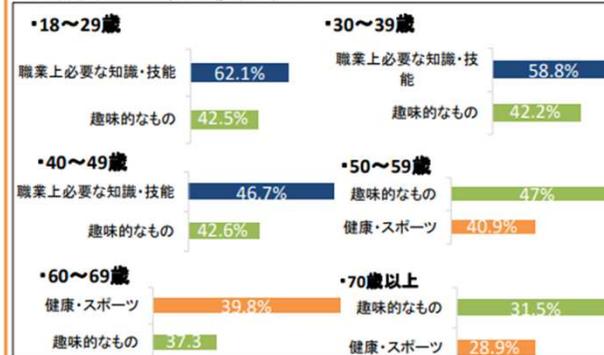
教育委員会、公民館等の学習内容



今後学習したい内容

「今後学習したい」と答えた社会人の割合 82.3%

○年齢別（上位2項目、複数回答可）



（出典）文部科学省「社会教育調査報告書」（平成27年度）、内閣府「生涯学習に関する世論調査」（平成30年度）等

3-7 教育をめぐる状況と課題

- 年間を通じて様々な生涯学習活動を提供しているものの、行政主導の体験学習が中心となっています。多様な主体と連携し、地域コミュニティ形成につながる学びの機会へ転換していく必要があります。

令和5年度 葉山町の生涯学習活動

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
家庭教育 (親子教室)				デジタル体験	デジタル体験 料理教室	デジタル体験	デジタル体験	デジタル体験	デジタル体験	デジタル体験	デジタル体験	デジタル体験
芸術文化		複製画展	複製画展	文化講座	複製画展	文化講座 複製画展	文化祭 文化講座	文化祭				文化講座
公民館教室等	ハンドベル 写真講座	ハンドベル	ハンドベル 古文書 麻雀教室	ハンドベル フラワーア レンジメン ト	ハンドベル ウクレレ 料理教室 砂絵	ハンドベル オンライン 自習室	ハンドベル お絵描き教 室	ハンドベル フラワーア レンジメン ト	ハンドベル 料理教室	ハンドベル 料理教室	ハンドベル 姿勢講座 町民大学	ハンドベル リトミック 町民大学
スポーツ		葉山マラソ ン	サップ& ビーチテニ ス体験	波乗り体験 ウィンド サーフィン 体験 草津町親善 水泳教室	ヨット体験	トップアス リートに学 ぼう(ビー チバレー)	体力測定		町民駅伝	草津スキー 教室	かながわ駅 伝 スポーツ オープン デー	
青少年育成	里山体験	稚魚放流	自然観察会	サイエンス ショー	ジュニア キャンプ		サンドアー トフェス 逗葉地区青 少年音楽祭	ジュニア リーダー養 成講座 ものづくり 教室	ジュニア リーダー養 成講座	二十歳の集 ジュニア リーダー養 成講座 あいさつ運 動	ジュニア リーダー養 成講座 星空観察	ジュニア リーダー養 成講座

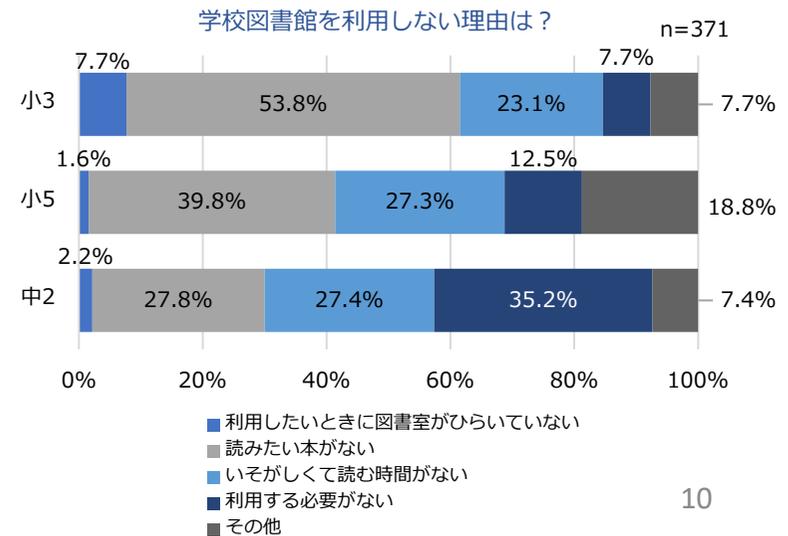
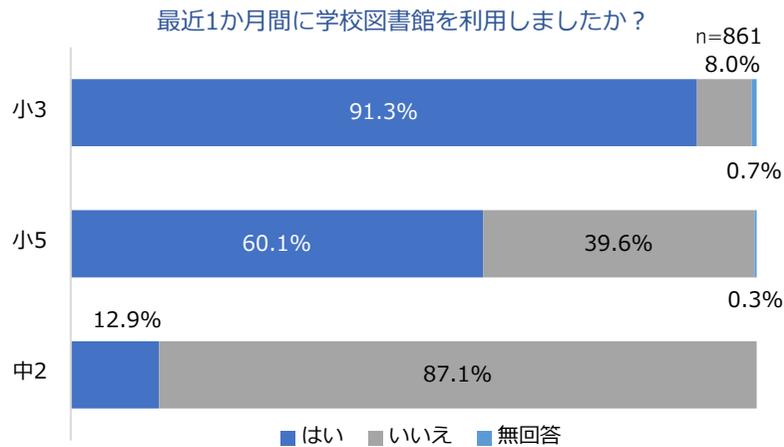
3-8 教育をめぐる状況と課題

- 「今後の葉山町立図書館のあり方について」（令和3年2月1日・葉山町立図書館あり方検討委員会）では、図書館の将来のあり方について、「課題解決型の図書館」と「地域交流の拠点としての図書館」との方向性が示されていますが、具体的な取組みまでは至ってはいません。また、児童生徒の読書活動では、学年が上がるにつれて学校図書館の利用が減少しており、学校で展開されている探究的な学びと読書をつないでいくことが課題となっています。

葉山町立図書館来館者数と総貸出点数（個人）の推移



第3次子ども読書活動推進計画アンケート結果（令和3年度）



3-9 教育をめぐる状況と課題

- 学校、図書館をはじめとした学びの空間は、老朽化に加え、新しい時代のニーズへの対応が喫緊の課題となっています。限られた財源で、最適な空間を実現するためには、機能の集約化・複合化・分散化・代替え、官民連携などを組み合わせていくことが大切です。

本校舎

学校	竣工年月日	築年数（令和6年4月1日時点）
葉山小学校	昭和45年3月31日	54年
上山口小学校	昭和47年7月31日	51年
長柄小学校	昭和51年3月31日	48年
一色小学校	昭和44年3月31日	55年
葉山中学校	昭和58年3月31日	41年
南郷中学校	昭和56年1月31日	43年

葉山中学校屋上防水

No. 建02



校舎

屋上 アスファルト保護防水

- 設置/更新年： 1983年
- 状況
著しい劣化・損傷が見受けられる。広範囲にひび割れ、変質、排水不良、雑草、目地シーリングがの損傷が見受けられる。下階では天井の漏水が複数箇所ある。
- 診断
早急な更新が必要である。

長柄小学校給排水

No. 衛27



屋外 揚水配管（校舎・プール）

- 設置/更新年： 1976年
- 状況
広範囲に劣化(安全上、機能上、不具合発生の兆し)
- 診断
更新時期を超過している為、早期の更新を推奨する。

出典：劣化診断調査（令和元年度実施）

4 葉山町が目指す教育

楽校をつくろう！

少子高齢化の縮小時代。なにが、未来を切り拓くのでしょうか。

正解のない時代。なにが、AI と共に豊かな社会を実現するのでしょうか。

人生 100 年時代。なにが、個人と社会のウェルビーイング*¹⁴を高めるのでしょうか。

その答えは、「学び」ではないでしょうか。

学校での「学び」のまんなかには、未来を担う子どもたちがいます。

「学び」と子どもたちをまんなかには、大人・地域・社会がつながります。

葉山町では、多様性を認め合い、未来を担う子どもの学びを中心に、

大人・地域・社会がつながる大きな学びの場「楽校をつくろう！」に挑戦します。

5 「楽校をつくろう」を実現する6つの施策の方針

もっと、ワクワクする学びを

世界トップレベルにある日本の知的な力を育ててきた学びは大切にしながら、ワクワクを原動力に、意欲・意志、自覚し見渡す力、人と協力する力等の非認知能力*¹⁵をどう学ぶか、何ができるようになるかを研究・実践し、「考えて行動する人」を育成します。

もっと、通いたい空間を

小中一貫教育*¹⁶による教育的な効果の最大化を図るため、施設一体型小中一貫校の整備を進めます。「まなぶ」・「くらす」・「あつまる」・「まもる」の4要素で整備コンセプト*¹⁷をまとめ、町民みんなが通いたい空間づくりを目指します。

もっと、一人ひとりに学びを

子どもが安全に安心して学校生活を送ることができる教育環境を構築します。学校は子どもとその保護者との信頼関係を築くために対話を大切にしながら、一人ひとりの個性や関心をしっかり把握し、すべての子どもにとって適切な学びをを実現します。

もっと、つながる地域を

学校運営協議会がスクールポリシーをもとに学校運営のかじ取りとなり、地域学校協働本部*¹⁸（地域学校協働活動推進員*¹⁹）が学校と、学校を応援してくれる人々のコーディネーターとなり、社会に開かれた探究的で創造的な学びをつくります。学びを通じた人と人の交流で町を活性化させます。

もっと、生活に学びを

生涯にわたって知的好奇心と心身の健康を保持増進し、多様な主体と協働する力を高め続けるため、生涯学習・青少年育成・スポーツ・芸術文化・図書館等に係る施策の充実を図り、気づきの機会を広く提供し、生活と学びの融合を図ります。

もっと、教員のワクワクを

葉山町における働き方改革では、教員のやる気を引き出すことを重視します。教員が自らの成長に関心を持ち、教員同士の学び合いや、学び続けることができる環境を整えます。組織として、目標や評価のポイントを明確にし、教員の主体性や創造性を高めます。

基本計画

6つの施策の方針ごとに
主な施策を掲載する予定です

施策ごとの進行管理のイメージ

	第1期				第2期			
	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032
8年後の姿	(サンプル) 「主体的・対話的で深い学び」の手法が教員に広く共有され、それによって非認知能力」が着実に向上している。 0000年度非認知能力：0000年度比で全ての質問項目がプラス（ポジティブ）傾向							
8年後の姿を実現する施策①								
8年後の姿を実現する施策②								
8年後の姿を実現する施策③								
8年後の姿を実現する施策④								
8年後の姿を実現する施策⑤								

もっと、ワクワクする学びの施策

資料

用語集

No.	用語	説明
1	スクールミッション	各学校の存在意義や各学校に期待されている社会的役割、目指すべき学校像のこと
2	ビジョン	将来の見通しや未来像、目指すゴールのことで、将来に向けてありたい・あるべき姿を明文化したもの。
3	VUCA（ヴァーカ）	Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）という4つの単語の頭文字をとった言葉で、目まぐるしく変転する予測困難な状況のこと。
4	Shrink（シュリンク）	「縮小」「減る」「少なること」を意味し、市場や社会が縮小している状況のこと。
5	AI	人口知能（Artificial Intelligenceの略称）。知的な機械、特に、知的なコンピュータプログラムを作る科学と技術。
6	ジレンマ	相反する二つの事の板ばさみになって、どちらとも決めかねる状態。
7	メタ認知能力	自分の思考や行動を客観的に把握し認識する力のこと。
8	カリキュラム	教育課程のこと。学校の教育目標に向けて、どのような教育内容にしたりどれくらいの授業時数にしたりするかをまとめた計画のこと。
9	スクールポリシー	各学校の定める育成を目指す資質・能力に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針のこと。
10	コミュニティ・スクール	学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための学校運営協議会を設置した学校のこと。コミュニティ・スクールでは、学校運営に地域の声を積極的に生かすことで、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができる。
11	インクルーシブ教育	人間の多様性の尊重等を強化し、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能にするという目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ教育のこと。
12	フリースクール等	フリースクールやオルタナティブスクール等の、多様な学習の機会や体験の場をNPO等が提供する民間の教育機関のこと。その規模や活動内容は多種多様で、民間の自主性・主体性の下に設置・運営されている。
13	リスキリング	新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に適応するために、必要なスキルを獲得する／させること
14	ウェルビーイング	個人や社会のよい状態。健康と同じように日常生活の一要素であり、社会的、経済的、環境的な状況によって決定される（WHO翻訳）
15	非認知能力	主に意欲・意志・情動・社会性に関わる3つの要素（①自分の目標を目指して粘り強く取り組む、②そのためにやり方を調整し工夫する、③友達と同じ目標に向けて協力し合う。）からなる力のこと。
16	小中一貫教育	小・中学校段階の教員が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育のこと。
17	コンセプト	全体を貫く基本的な観点・考え方のこと。
18	地域学校協働本部	地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動（地域学校協働活動）を行う組織体。
19	地域学校協働活動推進員	教育委員会の施策に協力して、地域と学校との情報共有や活動を行う地域住民等への助言などを行うもの